

## かみくげ 恐竜の里新聞

平成二年三月二五日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第11号

上久下  
地域づくり  
センター  
0795 78 0001

## 丹波竜三次調査終了

期待の脚・首は次回に持ち越す

丹波竜全身骨格発見を期待して1月9日から再開した第3次発掘調査は3月2日で終了しました。今回は見つかりにくいとされていた丹波竜脚類の歯(USJのセンチ)が複数見つかったほか、肋骨6点や獣脚類、鳥脚類の歯も四〇点以上が確認されました。

期待していた脚や首の化石は今回も見つからず、楽しみは4次発掘以降に持ち越されることになりました。今回の調査では目新しい部位の発見がなく、恒例の記者発表も中間で1回しかありませんでしたが、竜脚類、獣脚類、それに鳥脚類の歯が多く狭い範囲から見つかったことで、丹波竜の周辺環境が色々と分かってくるものと思われまます。

今回の調査期間中(五二日間)にボランティア参加者でもっとも多い三九日に参加した村上鷹夫さんは「自分自身でもたくさん歯を見つけることができていい思い出になった。一次発掘からのボランティアに限らず、三次発掘で初めて参加した人たちとも親しく交流でき、地域や丹波竜のファンが一層増えたのが実感できてうれしい」と話していまし

た。また、「三次発掘ではマスコミ発表が少なく、調査に関心を持つ多くの人に不安や期待外れ感を持たせたのは、地元の盛り上がり考えたとき今後の課題として残る」と指摘する声もありました。



3次調査を終えてジャケットを引き上げる現場

## ソバ打ちと化石発掘体験

## 篠場・下滝のダブルイベント

篠場自治会が平成二〇年度から取り組んでいるソバの栽培とソバ打ちの楽しさを、上久下の皆さんにも広く知ってもらうと、地域づくりセンターでソバ

打ち体験教室・試食会を開きました。

三月二〇日、完成まもないセンター西棟「憩いとふれあいの部屋(仮称)」にソバ打ち台や麵棒を持ち込み、篠場の皆さんが慣れた手つきで実演していました。調理室では里づくり協議会の女性メンバーたちが参加して、ソバつゆを作ったり、盛り付けをして来場者に振る舞っていました。

用意した約三〇食は広場で化石発掘体験をしていた下滝自治会の皆さんにも試食してもらい好評価を受けていました。初めて「篠場のソバ」を試食した参加者は「想像した以上に美味しくてよかった。これなら地域で推薦できる食として恐竜の里を訪ねる人に提供できるのでは」と話していました。

一方、下滝自治会では公民館事業として、「日天さん迎え」のあと、大人と子どもとの化石発掘体験をセンター広場で三〇人が集まって行いました。

二次発掘後に発掘現場から持ち込んだ石屑の中から恐竜化石や小動物の骨を見つけようと有志が家族づれで参加しました。参加者のほとんどは初めての体験でしたが、3時間の体験で見つけた恐竜化石(骨片)ははっきりと骨と断定できるもの、どちらかははっきり判断できないもの、合わせて二八個にもなり、見つかる度にあちこちから歓声があげていました。

「一億年以上も前の生き物の化石に自分が直接ふれることができてうれしい。まさに太古のロマンです。この地域に住んでいることを誇りに思います」と



化石を探す下滝自治会のみなさん



ソバを打つ篠場自治会のみなさん

参加者の一人は感想を述べていました。後日、人と自然の博物館でこれらを確認してもらうことにしています。

## われらが里の元気人 見つけた！ 7

森田隆子さん  
(九二歳・下滝)



森田さんは大正6年1月生まれで九二歳になります。今でも元気で週5回自宅で生け花(末生流)を教えておられます。取材に訪れた日も2人のお弟子さんを指導していました。

森田さんと生け花のかかわりは長く、二四歳の年から生け花の先生として指導を始められ、七〇年近くなります。育てたお弟子さんたちも数えきれない位の数になるそうです。人生を生け花とともに過ごし、生け花があったからこそ自分の人生を振り返っておられます。お花なしでは自分を語れない、お花の陰で今の自分が存在する。この年になって人さまに会ってエネルギーをもらい、元気でいられるのも、すべてはお花のお陰。お花がなかったら「ただの老人」で

あった筈だ。このことを毎日先祖さんに手を合せて感謝しているそうです。

森田さんは少し耳が不自由になり、足も痛く外出の機会が少なくなりました。が「生け花を教えるのに不自由とは思いません。達者な口さえあればこの年でも続けられるですよ」と笑っておられます。お弟子さんにも、習い事はいったん始めたら、それを続けることが大事だと説いておられました。

「自分で身に付けた習い事が自分を成長させ、自分の人生を支えてくれるのです。途中で投げ出すのでなく、継続することが大事です」と熱っぽく話されるのが印象的でした。

### 野菜づくり講習会 専門家を講師に招いて

有機野菜の栽培方法や土壌づくりについて正しく学ぶ講習会が県民局柏原農業改善普及センターから講師を招いて、三月一〇日に地域づくりセンターで開催されました。講習会を企画したのは恐竜の里づくり協議会で、農水省ふるさと支援モデル事業を中心となつて進めている村岡茂男さん。地域内で減農薬野菜の生産を奨励し、地域内外への販売を通じて将来の自立と収益性を追求するための試みで、活力ある地域の実現を目指しています。

恐竜の里新聞や有線放送を聞いて参加した二八名の男女住民は熱心にメモをとり、あちこちから質問が飛び交っていました。参加者の一人は「正しいと思

って長年やっていたことが、間違っていたりして、今日の講習は大変勉強になった。今後の野菜づくりに役立てたい」と語っていました。



熱心にメモを取る受講者のみなさん

### 恐竜絵本など子供向け学習本 四十三冊がセンターに

県民交流広場事業を進めている地域自治協議会は小学生むけの自然学習本を四十三冊購入し、地域づくりセンター2階カルチャールームに配置しました。恐竜の里の子どもたちが自然科学に関心を持ってもらおうと慎重に選別された恐竜絵本や自然の動物・植物に関するもの、星や天体に関するものなど小学生低学年から高学年までを対象にしたものです。「学校の授業の一環としてカル



カルチャールーム本棚に並んだ本の数々

チャールームを利用してもらったり、本の貸出も考えており、多くの人に活用してもらいたい。今後、更に本の数を増やし、子どものみならず大人の学習にも役立てたい」と自治協議会では期待しています。お申し込み、お問い合わせは地域づくりセンターまで。

#### 4月の予定

- ◆ 毎土・日・祝 丹波竜化石発掘体験ツアー(丹波市・観光協会・商工会) 午前・午後2回
- ◆ 四月五日(日) 一〇:三〇〇 桜まつり
- ◆ 同日 九時三〇分 歩こう会
- ◆ 地域づくりセンターより出発
- ◆ 同日 九時三〇分 恐竜の里駐車場にてミニイベント除幕式
- ◆ 四月七日(火) 上入下小学校入学式
- ◆ 四月一日(土) 一九:三〇〇 里づくり協議会定例会